

有毒植物集說

田十号

No.	13
函號	α
書號	274
內閣	



471.9
Yn
9686



有毒植物集説目録

ドクセリ	ドクウツギ
アセビ	シキミ
ヤマゴバウ	トリカブト
タウゴマ	カラスビシヤク
ホルトサウ	クマヒラタケ
ツキヨタケ	ハヘコロシ
ワラビタケ	ヲトリナバ
ベニタケ	キヌカサタケ
テングノ傘タケ	クワエンタケ
キツネノエカキブデ	ヤマコンニヤク
テウセンアサガホ	ニハトコ
フジモドキ	センニンサウ
ナベワリ	ツタウルシ
マンジュシヤケ	ハシリドコロ
タケニグサ	コクサギ
ウルシ	キンギンボク
ツルナ	ドクイモ
ケシ	ハツシヨマメ
ザゼンサウ	ミヅバセウ
アブラギリ	ドクダミ
フジウツキ	バイケイサウ
ソクツ	シユロサウ
タガラシ	キンボウケ
キツネノボタン	

以上四十七種

有毒植物集説

救荒植物ハ農ニ歸ラ累ネテ集説シ以テ其大要ヲ知
ラシメタリシカ該植物ハ所謂無害無毒ノモノニシ
テ吾人ノ食品ニ供スヘキモノナリ然ルニ植物中亦
有毒ノモノアリ今無害ノモノヲ拳ケテ有害ノモノ
ヲ掲ケサレハ恰モ植物説ノ一半ヲ欠クニ似タリ殊
ニ凶荒ノ時ニ當ツテ苟モ緑色ノ植物ヲ見レハ害毒
有無ノ區別ナリ之レヲ食ヒ其毒ニ中ルモノ往々之
レアリ例ヘハ「ドクゼリ」「ドクウツギ」「ハシリ」「ドコロ」等
ノ有名ノ毒物タルコトハ古来諸籍ニ載ヤ又人口ニ
膾炙スル所ナリ然レモ之レヲ食ヒ其毒ニ中ルモノ
今日仍其跡ヲ絶タサルハ豈ニ慨歎スヘキニアラス
ヤ蓋シ其中毒ノ状ヲ述フルニ身体大熱、精神錯乱、搐
搦、痙攣、額上粘汗、唇口紫黑、大煩渴、吐血、吐涎、脈勢沈微
等ノ諸症、故拳ニ遵アラヌ故ニ各地ノ医家ハ勿論村
吏古老モ深ク茲ニ注意シ寒郷避村ノ窮民ニ諭示シ
以テ此害毒ニ罹ルノ不幸ヲ免レシメンコト我徒ノ
切ニ希望スル所ナリ

ドクゼリ

織形科



オホゼリ イヌゼリ サハウド オニゼリ

ハマゼリ 越后 カブゼリ タカゼリ 本曾

ヤスゼリ 東濃 モ、ネドリ 東京 ハサワサビ

ヘビサイキ 駿及 番白芷 水白芷

漢名 苧葉釣吻 洋名 シキユーダヤポニカ

此毒草ハ城及御菩薩池江及水湖武及洗摩池其他ノ

東北池澤ニ多シ綿花ノ草ニシテ茎葉共に毛茸アリ

高サ四五尺葉ハ白芷ニ似テ狭細ナリ凹形空虚ニシ

テ夏月細白花ヲ着ク稍々胡蘿蔔ノ花ニ似タリ此ノ

根ヲ花戸ニテ鳳凰角延命竹萬年竹蘭天竹等ト呼フ

其形状ハ苧ニ似タリ故ニ諸国ニテ誤リ食フテ其毒

ニ中ルモノ多シ此中毒症候タルヤ概シテ食后一時

衛生局東京試験所

間許ニシテ顔色蒼白瞳孔散脈動不正煩悶惡心扶吐

スルコト能ハス口涎沫ヲ吐シ或ハ血ヲ糞へ人事不

省呼吸促迫四肢厥冷口唇紫黑或ハ全身紫色痙攣搐

搦等ノ諸症ヲ惹起スナリ嗚呼此ノ毒ニ中ルモノ或

ハ直ニ鬼籍ニ登リ或ハ幸ヒニ免カルモ甚

シキ困悶ヲ受ク豈ニ恐ルヘキニアラスヤ要スルニ

人ノ此ノ不幸ニ逢フハドクゼリノ形状通常ノ苧ニ

似タルヲ以テ之レヲ食スルノ際此兩種ヲ詳カニ辨

別スル能ハサルニ由ルナリ北越ノ村民瘧ヲ患フル

牛此ノ葉ヲ揉ミテ寸口ニ貼スレハ一夜ヲ経テ瘧ヲ

祛ルト云フ但シ之レヲ貼スルノ部大ヒニ腫ルハコ

トアリト或ハ云フ此煎汁ヲ以テ牛馬ノ瘻ヲ洗ヘハ

其ノ患ヲ除クヘシト此草ノ蜀説ハ日本産物誌武藏

ノ部ニ詳カナリ

ドクウツギ

木本鉤吻科

ドクノキ 無臭

ヒトコワバシ 同

ナヘワリ 加臭

ネヅココシ 豆蔻

ネヅミココシ 甲臭

イチロベ

コマシ ワウレンジユ カワラウツギ 木酢

フマシキヅ ミ佐臭 ミツヤカズ 臭臭 オニウ

ツギ

漢名 木本黃精葉鈎吻

洋名

コリヤリヤヤホ

ニカ

武 煉馬川 相 金沃 濃 臭 勢 臭 信 臭 其他東北諸国ノ山

野殊 河原ニ多シ 又北海道ニモ生ス 小木ニシテ叢

生シ 高サ四五尺 葉形龍膽葉ニ似テ三縱通アリ 兩對

挑生ス 夏初紅色ノ穂ヲ抽キ細花簇生シ 雄花雌花ア

衛生局東京試験所

リ 赤色扁田ノ莢ヲ結フ 熟シテ鮮紅甚美ナリ 故ニ児

輩之レヲ採リテ散弄シ誤リ食シテ焚ル、コトアリ

其中毒ノ症タルヤ 身体大熱、精神錯乱、搐搦痊寧、額上

粘汗、唇口紫黒、大煩渴、吐血、吐涎、脈沈微等ノ諸症ヲ發

スルナリ 又此葉ヲ食ニ雜ヘテ乳ニ食ハシムレハ乳

亦焚ル 臭越諸臭ニテハ此木ハ毒ナリトテ薪トナサ

ス 若シ此ノ木ニテ味噌ヲ焼キ食フヤハ忽チ死スト

云フス 鱧臭ヲ焼キ食フモ亦焚ルト云ヘリ 故ニ「イワ

シヤカズ」ノ方言マリ 此実ヲ疣ニ附クレハ疣落ツ 故

ニ「イボノキ」木曾ノ名アリ

アセビ 大戟科

馬酔木 萬葉集

アセビ 枕草紙尾

イハモ子 古歌

アセボ

アセモ

アシフ雲 臭

アセフ 豊后 アセビ 勢 災 ヨシミ 筑前

ヨセブ 豊前 ヒサ、ギ 大和 本草 樹カト

シヤリシヤリ 城 災 上 ドクジハ 豫 災

コメキ 熊野 フグシバ 三 災

漢名 授木 米飯花 植物 名

洋名 アンドロメダ、ヤポニカ

此ノ灌木ハ諸国山中ニ多ク自生シ葉形鈴ニ似テ細ク且ツ常緑樹ナリ南都春日ノ森ニ多クシテ頗ル大ナルモノアリト云フ此ノ樹大葉アリ細葉アリ細小葉アリ花戸ニテ四葉ト呼フモノハ倒卵四形ノモノナリ春分ノ頃梢ヘニ二三寸ノ穂ヲ下垂シ壺状小白花ヲ繁ク綴ル天明年間洋人チンベルグ我カ知ニ来リテ此樹ヲ創見シ其著各日本本草中ノ番説ニ此ノ

衛生局東京試験所

洋名ヲ載セタリ此ノ葉味辛クシテ毒アリ或ハ曰フ其根モ亦毒アリト牛馬其葉ヲ食ヘハ忽チ酔フ故ニ馬酔木ノ名アリ又タ此ノ煎汁ヲ冷シテ葉虫ノ附キタル葉美腹ニ灌クヤハ其虫ヲ殺スヘシ又鹿之レヲ食ヘハ不時ニ角ヲ解クト云フ又河豚ノ毒ヲ解ス故ニ又「フグシバ」ノ名アリ人若シ之レヲ食ヒタル河豚ヲ食ヘハ即死スト云フホタ其信否ヲ知ラス又人ノ頭炎モ此葉ノ煎汁ニテ洗フヤハ能ク之レヲ癒スヘシ俊頼ノ歌ニ「フグシバ」云々又先俊ノ歌ニ「カミツ」云々いふまのやゆのあせみもあさきもあそりなむささきあそりうふ此樹ニ生スル菌ハ必ス人ヲ殺スヲ親ク視タリト和訓栞ニ見ヘタリ又試ミニ此ノ枝葉

ヲ馬ニ食ハシムル片ハ其馬敢テ之レヲ食ハスト云
フ又静岡邊ニテハ蝗害ヲ防クニ此葉ヲ摘採シ釜ニ
入レ烈火ニテ之レヲ煎シ竹葉ヲ以テ其汁ヲ田面ニ
振り灌ク以上ノ諸説ヲ参考スレハ此ノ木ノ毒物ナ
ルコトハ既ニ明カナリ

シキミ

同科

之岐美

和名

ハナ東京

オハナ濃良

カウシバ遠良

カウノキ目

マツコ勢良

シキミノ木

補仁本草

抹香木

大島琉球産物志

香葉

和方

拂和字 和字 拂字

檳和名 和名 玉篇

葉華草新明集

漢名 船茴香

莽艸

洋名

イルリシウム、アニサキム、又イルリシウム、

レリキヨシユム

衛生局東京試験所

諸国山中ニ自生ノモノアリ高サ大餘枝葉互生シ葉
ノ両尖ハ長橢圓ニシテ長三寸許暗緑滑澤ニシテ常
緑木ナリ此葉ハ都鄙共ニ専ラ仏前墓前ニ供シ衆人
ノ熟知スルモノナリ四月葉腋ニ淡黄緑色ナル鈴餘
辯ノ花ヲ着ケ後チニ実ヲ結フ其形大茴香ノ如クセ
八角ニシテ密着シ且車輪状ヲ為シ中ニ扁圓黄褐色
ノ種子アリ此ノ樹ノ番説ハ東京大學植物園番説ニ
詳カナリ此根実共ニ毒アリ播良ニテ一農民疝ヲ患
ヘテ腰痛ノ劇シカリシヤ或ル人カ此ノ根ノ効アル
ヲヲ説クヲ聞キテ煎服セリ而ルニ痙攣ヲ發シ嘔吐
ヲ催シ煩悶シテ暫ラク人事ヲ辨セサルニ至リ後チ
徐々ニ輕快シ幸ヒニ或ラ免カレタリ又群馬縣某村
ニテ六七歳ヨリ十歳ニ至ル男女ノ三兒此シキミノ

実ヲ拾ヒ食シタルニ其一児ハ即日ニ死シ而児ハ僅
カニ或ヲ免カレタリ又廣島縣ノ村童三人此毒ニ中
リ其二人ハ中毒ノ劇症ヲ發シ四支痙攣擡牙關緊
急煩悶ニ堪ヘス或ハ青便ヲ下痢シ或ハ嘔吐シテ其
食シタル実ヲ糞出シ苦悶二時間許ニシテ終ヒニ發
レタリ其一児ハ僅カニ二粒ヲ食ヒタルノミナルカ
故ニ其症候モ輕ク胃部少シク脹痛シ發熱苦悶モ甚
シカラスシテ幸ヒニ死ヲ免カレ不日ニシテ快和ヲ
得タリ又此ノ根ノ有毒ニシテ村民淋疾ニ効アリト
誤聞シ之レヲ煎服シ忽チ其毒ニ中リ胸腹劇痛面色
變シテ土ノ如ク吐血煩悶一時間ヲ經スシテ發レシ
ヲマリト云フ

莽艸ノ実ハ人ニ毒アリ諸國ニテ此ノ毒ニ中ルモノ

衛生局東京試驗所

往々之レアリ甚シキハ暫時ニシテ或ハ小児ハ殊ニ
之レヲ戒ムヘシ此ノ毒物タルヤ先哲往々其說アリ
ト雖モ尚ホ能ク注意スヘキナリ

ヤマゴバウ

商陸科

伊予須木

和名

タウゴバウ 南部イヌゴバウ 上ノ

ジャコスギ

丹次

タウガンボ 東濃

漢名 商陸

洋名

ヘイトラッカ、アシノサ

諸國ノ山林又ハ陰地ニ生ス人家ニモ亦栽ウルモノ
アリ宿根ヨリ生シ莖高サ三四尺葉ハ其形略々烟
草ニ似テ楕圓長サ六七寸許柔脆光滑ニシテ互生ス
又狹葉モ之レアリ夏月五瓣白花穂ヲナス莖ナシ後
テニ漸ク淡緑トナリテ実ヲ結ヒ黒熟シテ瓣尚ホ脱
ヤス又紅色ニ變ス其实ハ落チテ生シ易ク葉ハ農家

ニテ味増汁ニ入レテ食用トナスモ害アルヲ見ス根
ハ外皮淡褐其年ヲ経ルモノハ肥大ナリ漢方医常ニ
此ノ根ト赤小豆トヲ伍シテ水腫脚氣脹滿等ニ投用
ス乾根ヲ煎用スルキハ未タ其害ヲ見サレトモ此ノ
生根ノ絞汁ハ見タ害アルモノナリ曾テ人アリ水腫
病ニ驗アリトテ其一小粒設ニ充ツヘキ量ヲ飲ミ暴
吐瀉ヲ發シ大ヒニ衰憊シ將ニ斃レントシタルモノ
アリ又先年桑名藩中ニ水腫ノ患者アリ客遊ノ一医
此高陸根ノ絞汁ヲ投用セシカ其量稍々多量ナリシ
ニヤ其人暴吐瀉ヲ發シテ終ニ歿セリ而ルニ其親族
大ヒニ之レヲ怒リ其医ヲ殺サントセシカ其父之レ
ヲ背セス彼ノ医素ト之レヲ救ハントシテ其量ヲ誤
リタルモノニシテ改シテ故意ニ出テタルモノニア

衛生局東京試験所

ラス且ツ之レヲ害スルモ我カ子ノ命ニ益ナシトテ
固ク之レヲ止メテ止ミタリト云フ又或ル医ノ経験
説ニ此ノ根汁ハ僅々十餘滴ヲ用フヘキノミト按ス
ルニ斯クノ如キ峻藥ハ名哲ノ屢々之レヲ経験シテ
確實ニ議定スルニアラサレハ容易ニ投用スヘカラ
ス

ヤマゴバウノ一種ニシテ其花ノ蕾ニ紅色ヲ帯ヒ完
ケハ白花ナルモノアリ東濃大井邊又ハ日光足尾等
ニ多シ漢説ニ所謂赤葛毒アリト云モノナラン此ノ
品果シテ然ルヤ他日尙ホ歴驗ノ上之レヲ記載スヘ
シ

毛茛料

マロカブマ
カブマモ
カブマモ
カブマモ

やぶさ信良

ぶす佐北海道

ぶすいも

ぶつさら江良

やぶさ木曾

ーらみぶさ同

そあろーくさ同

くさの畧

ーゆろ北海道

こーちろ同

せんたーちろく

漢名 烏頭

洋名

アコニチム、フイツシエリ

此ノ草ハ諸国ノ山野ニ自生ス其品類頗ル多シ春月
宿根ヨリ苗ヲ生シ秋月花ヲ開ク其翠色美麗ナルヲ
以テ往々庭園ニ栽エテ愛養スト虫モ固ト毒草ナリ
殊ニ野生ノモノハ其毒甚タシ或ル説ニ北方寒地ノ
産ハ其毒最モ甚タシヲ若シ誤リテ此ノ芽ヲ食ヘハ
直チニ死スルヲ以テ奥羽ノ山民ハ方言「タニコサズ
ト呼フ之レヲ食スルトキハ答ヲ出スシテ直チニ斃
ル、ノ義ナリ往年中仙道伏見駅ノ馬丁木曾山村ニ
産スル烏頭救儀ヲ馬ニテ運送スルニ当リ曾テ此ノ
芋塊ヲ疝氣ニ切驗アルコトヲ傳聞セシニ因リ竊カ
ニ其烏頭救箇ヲ偷ミ家ニ携帰リ之レヲ削リテタリ
味噌汁ノ中ニ加ヘテ食ヒタリシニ果シテ毒ニ中リ
食後忽チ身体麻痺シ大ニ吐血シテ殆ント死ニ瀕セ
リト云フ又先年北海道ニテ烏頭ノ嫩芽ヲ土當帰ト
誤認シテ之レヲ摘ミ羹中ニ加ヘ食セシモノ三人ア
リテ其一人ハ忽チ死シ二人ハ煩悶スルコト甚タシ
ノ終カニ死ヲ免カレシト云フ嘗テ柯太島人カ其毒
箭ニ用フル烏頭ノ葉ヲ窺セシニ細葉ノ品ニシテ即
チ「アコニチムナペル」ニスト云フモノナリ北海道ノ産
ハ其毒殊ニ劇烈ナリト見ヘ之レヲ以テ瘁猛ノ巨熊
ヲ一箭ノ下ニ斃スト云フ

たうごま

大戟科

加良可之波

和名

加良衣

同

からのかし

みやかくし

あめりかごま

いんよくまめ濃

遠近子

和名

漢名 蓖麻

洋名

リシナス、コムミニス

此ノ草ハ素ト本邦ニ自生セス昔時漢種ヲ傳フ又近
年米因種ノモノアリ春分種子ヲ下シテ生ス因茎直
上枝ナクシテ高サ丈許空虚ニシテ節アリ葉ハ互
生シセ或ハ九ニ欠裂シハ角金盤葉ニ似テ粉緑色又
粗鋸齒アリ径壹尺許秋月梢上或ハ其節ニ花梗ヲ出
タシ雄雌其花ヲ異ニシ雄花ハ多ク雄蕊黄葯ヲ着ケ
雌花ハ実礎四尖ニシテ毛アリ後実ヲ結フ其大サセ
分許外ニ柔刺アリ中ニ三子ヲ害ル其殼斑紋アリテ

衛生局東京試験所

頗ル美ナリ此ノ実素下劑ニ用フ其油ハアリカスト
ル油ト稱シ印肉ヲ製スルニ用フヘシ支那ニテハ油
紙ヲモ製スト云フ小兒之レヲ翫弄シ若シ誤リテ嚥
下シ其毒ニ中レハ腹痛嘔吐脈細救煩渴引飲大苦悶
シ其劇ナルモノハ食後半時許ニシテ忽チ眩暈悶絶
面色惨青殆レト人事ヲ省セス四五日ヲ経テ治スル
モノアリ僻地ニテハ此ノ草ヲごまと呼フヨリ之レ
ヲ炙碎キ胡麻ニ代ヘ食物ニ雜ヘ食ヒ往々其毒ニ中
ルモノアリ宜ク注意スヘシ
からそひーやく 天南星科
加多保曾 延喜 保曾久美 本草 みつだま 武
へぶさ 仙臺 へそくび 備后 へりべ 木曾
かぶ 南部 かく 勢

洋名 ヒネリア、ルペリフェラ

郊野路傍ニ自生多シ茎上三小細葉並ニ着キ又細梗ヲ抽キ秋ニ天南星ニ似テ小花ヲ開ク此根漢藥ノ藥劑ニハ害ヲ見スト虽モ生根ノマ、啗メハ害アリ又之レヲ掘リテ日ニ乾シタルモノ又ハ土中ヨリ掘出シタルモノハ共ニ害アリ小兒之レヲ嚼ミ口腫レテ悩ムコト往々アリ

和名 ほろまきり 大戟科

こくでさう ちやうせんやざぶ花戸

漢名 統隨子 洋名 ユーフォルビア、ラシリス

此ノ草茎直立シ茎葉共ニ粉白ヲ帶ヒ葉形細長ニシテ之レヲ切レハ白汁ヲ出タス此ノ葉兩々對生シテ層ヲ為シ上下互ヒニ正シク相對シテ十字樣ヲ為ス

衛生局東京試驗所

莖頭ニ至リテ滿チ四葉ヲ對生シ四枝ヲ抽キ花ヲ着ク大戟ニ似テ大ナリ実ハ田クシテ大サ四五分許ナリ此ノ草ハ和産ナシ天文十三年葡萄芽人其種子ヲ齎ラシ来ル故ニ此ノ名アリト云フ又一説ニ之ヲ以テ葡萄酒ニ代用シ刀剣ニ塗リ又ハ印肉ヲ製スルニ用フレハ粘氣少ナシ故ニ斯クノ如ク名ツクト云フ此乳汁ハ人ノ皮膚ニ多ク觸ルレハ人瞑眩シ其面部及ヒ手足大ヒニ腫ル、コトアリ洋説ニハ之レヲ以テ疣贅ヲ除クヘシト云フ又此ノ実ヲ食スレハ口中ヲ刺戟シ後々下痢ヲ發シ甚シキハ遂ニ死ニ至ルト云フ

毒菌類

凡リ毒菌ハ其種類一ナラサレトモ概スルニ山民ノ

毒草、月夜草、蠅殺草等ト呼フモノヲ以テ普通トス此
等ハ九月十月ノ際ニ生シ其産所モ亦タ一ナラス或
ハ平原茅草ノ中ニ生シ或ハ栗樹等ノ枯木ニ寄
生シ或ハ擬枹ノ樹下ニ生ス其形テ頗ル松茸ニ類
シ其蓋ノ外部ハ通常灰白色ニシテ滑カサレトモ或
ハ淡黒色ニシテ山椒ノ如キ針ヲ有スルモノアリ
故ニ紀及ノ方言ニハ之レヲ針茸ト呼フ尋常ノはり
ヲケトハ異ナリ其茎ハ白色ニシテ夜間光リヲ発ス
ルヲ以テ又月夜草ノ名アリ又ヤサケバケトモ稱ス
是レ蓋シ昔時此ノ毒ニ中リタル山民ノ名ナリ其中
毒ノ症タルヤ目眩腹痛或ハ腹痛セス吐瀉シ或ハ
ハ精神昏冒煩悶轉展指頭麻痺又ハ脈搏不定ニシテ
遂ニ沈微シ四支冷厥シテ終ニ斃ル其死ヲ免カルハ
者ハ幸ヒナリ其猫犬等ニ於ケル中毒ノ状モ亦之レ
ニ異ナラス左ニ其種類ヲ畧説シテ世ノ参考ニ資ス
ヘシ

衛生局東京試験所

一 くまひらけ

山毛榉ニ生スル菌ニひらけ、くまひらけノ二種
アリひらけハ平茸^{宇治拾遺}漢名天花^{トウカ}茸^ケ綱目^モハ朴ノ枯
木等ニモ生シ色白ク味淡美ナリぶなのうニ生スル
モノモ亦同様ニシテ食用トナスヲ得ヘシ如及白山
茸ノ山民ハ其美味ヲ賞スト云フくまひらけハ天
花茸ニ及シテ大毒アリ其形テハ相類似シテ混シ易
シ然レトモ其色淡黒赭褐ニシテ夜間光ヲ放テ又香
草ニ似タリ或ハ云フ此ノ品ハ山民ノをめシト云
フモノニシテ人若シ誤リテ之ヲ食ヘハ吐瀉シテ

死スト云フ然レモ是レわたりト称スルモノニシテ
此種ト自ラ異ナリ上野ノ山民曾テ其方言ニかた九
ト呼フモノヲ食シ其毒ニ中リ頻リト吐瀉シ僅カニ
死ヲ免カレタルモノアリト云フ蓋シ亦此ノわたり
ノ爲ナラン大和十津川邊ノ山民ノ言ニわたりハ香
草ニ似テ混シ易シ之レヲ辨セスシテ茹ヘハ必ス其
毒ニ中リテ斃ルト然レモ元来わたりノ状ハ香草ニ
同シカラス山毛棒等ニ生シ其莖ハ蓋ノ傍ニ附キテ杓
子ノ如シ

大毒ノ菌ト虽モ之レヲ食フ人ノ性質ニ因リテ間
々其害ヲ見サルコトアリ此ノ和太利ノ如キハ古
来其説アリ昔時金峯山ニ老僧ノ別當アリ別當ハ
一臆ヲ用フル規則ナレハ次臆ノ僧此ノ別當ヲ殺

衛生局東京試験所

シテ已レ之レニ代ラント謀リ此和太利ヲ採リ来
リ調味シテ進メシカ彼ノ別當ニ中毒ノ様子ナク
年来斯ク調和シタル和太利ヲ食ヒタルコトナシ
トテ其奸ヲ揆カレタレハ彼ノ僧愧ナテ遁出ラタ
リ此ノ別當ハ年来和太利ヲ食ヒタレモ毒ニ中リ
タルコトナカリシヲ彼ノ僧斯クト知ラスシテ仕損
シタルナリト此ノ事今昔物語ニ見エタリ此ノ中
毒不中毒ノ別ハ例ヘハ三人相列シテ河豚ヲ食ヒ
タルニ其一人ハ忽チ斃レ一人ハ毒ニ中シタレモ
幸ヒニ死ニ至ラス又一人ハ更ニ異状觀サルコトア
ルカ如シ

二 つきよけ

月夜茸ハ夜間光輝ヲ放テ始メテ之レヲ見ルモノハ

殆ント喫驚スヘキ程ニシテ誤リテ之レヲ食ヘハ吐
浮腹痛狂走シテ遂ニ斃ル、モノアリト云フ此ノ
草ニ二種アリ其一種ハ形々赤めぢニ似テ京野茅草
ノ間ニ生シ他ノ一種ハ形々香草ニ似テ栗樹志で
の等ノ朽木ニ生シ共ニ毒菌ナリ

明治十七年中富山縣上新川郡古上野村ノ方言ニ權
現草一名こうづちト云フモノヲ豆腐ニ雜ヘ其毒ニ
中リタルモノ救人アリ其症タニ苦悶甚タシク且ツ
腹痛嘔吐シ後々救時問ヲ経テ漸ク癒ユルヲ得タリ
ト云フ此ノ菌ハ平草ニ似テ径六七寸面栗色ニシテ
裏白ク暗夜ニ光ヲ發ス是レ亦月夜草ナリ

三 はへおるし 各ハハトリダケハハトマラス、ハハト
リシメジ

衛生局東京試験所

此ノ葷ハ秋月雨後樹間及ヒ陰地ニ生シ其根ハ初ノ
ハ土中ニアリテ白毬ヲ爲シ后々ニ其半ヲ地上ニ出
タシテ馬勃ノ初生ニ似タリ之レヲ破レハ滑液出ツ
毬中ヨリ茎ヲ抽リ三寸許又蓋ノ下ニ鋸ノ如キモノ
アリ弘化三年八月江戸渋谷廣尾町某家ノ僅ニ三人
渋谷川辺鉄炮場山ト称スル地ニ遊ヒ此葷ヲ多ク採
リ歸リ羹トシテ之レヲ食ス老婆モ亦之レヲ食ヒ六
歳ノ童子モ亦傍ラニ在リシカ只其汁ノミヲ吸ヒタ
リ夜半ニ及ヒ其食ミタルモノ皆煩渴引飲シ翌朝ニ
至リテ渴愈甚タシク其夕ニ至リ熱勢甚タ熾盛ナリ
乃チ井傍ニ至リテ自ラ灌頂スルヲ殆ト癡狂ノ如ク
医モ来診スレモ手ヲ束ネテ術ヲ施スト能ハス翌日
ニ至リ下痢瀕救ニシテ或ハ血ヲ交ヘ後々ニハ多ク

凝血ヲ下シ煩悶人事ヲ省セス老婆ハ翌日終ニ死
シ其他ハ第三日ニ至リテ斃レ只六歳ノ童子ノミ幸
ヒニ死ヲ免カレタリ然レトモ甬後病軀トナリ其面
色慘青十歳ニ及ヒテ漸ヤク恢復スルヲ得タリト云
フ此ノ毒草ノ番説ハ日本産物志武藏ノ部ニ詳載セ
リ
又明治十七年藝及安藝郡一農民ノ妻子其方言ニ
テ云クバむヲ食シテ其毒ニ中リ其症タル嘔吐四支戰
慄麻痺精神恍惚遂ニ昏睡セリ然レ氏医治其効ヲ得テ
僅カニ死ヲ免カレシト

四 けむむけ 漢名 笑草 楓樹菌

けむむけハ楓樹及槭樹ニ生ス蓋シ楓ト槭トハ植
物學ニ於テ其屬同シカラサレトモ其之レニ生スル

衛生局東京試験所

所ノ菌ハ其ニ同シキモノナルカ如シ而シテ彼ノ楓
樹ノ菌ヲ食ヘハ笑フテ止マサルヲ古来漢説ニ傳フ
ル所ナリ

楓樹ハ我國ニ自生ナキヲ以テ往々漢種ヲ傳極ス
レモ未タ菌ノ生スルモノヲ見ス按スルニ明末ニ
歐化セシ陳芝山ハ我國ノかへでを楓ト稱セリ又
清人ニ問フモ往々通シテ楓ト云ヘリ或ヒハ雞楓
トモ稱ス植物名実番考ニ凡ヲ樹葉有又岐者呼爲
楓不尽同類トアリ故ニかへでニ槭樹ノ名アレモ
又通シテ楓ト稱スト見ヘタリ

本邦ノ槭ニ生スル菌モ亦同一ノ毒アルヲ経験セリ
主ク幼時故郷尾及ニ在リ時津田縫殿頭ノ輿丁六
七人槭ニ生スル菌ヲタテ採リ共ニ之レヲ煮食ヒ大

こニ其毒ニ中リ遂ニ皆乾笑スルヲ殆ント狂スルカ
如ク自ラ禁スルヲ能ハサリシカ亡父西山玄通ノ治
療ニ依リテ漸ク快腹シ幸ヒニ一人モ死セサリキ是
レ紅葉たけの笑葦タルヲ知ルヘシ

細井平洲ノ小語ニ云ク米沢學生桐生大右隣人得
菌烹食之須臾病笑笑不已抱腹宛轉一日夜殆且死
家人奔走向レ臣余曾聞有_レ此物果信_レ矣多紀標窓匡賸
ニ云フ予家一僕於_レ是_レ與其友五人得_レ異菌于道傍
状似_二松葦而小梢帶赤色_一牧茎攢簇採_レ取煮食之旋心
如醉稍_レ癡笑不止一時許目運顛倒不能起口裏粘唾
吐_レ之色如磨刀汁繼之以涕泣如_レ許者半日而復故其
中有_二酒人無_レ異_一平常本邦不_レ產_二楓樹_一其令人笑者乃清
異錄所謂笑_二矣_一平夷堅志載_二邵岑食_レ葦事_一信乎酒能解
其毒_二矣_一

衛生局東京試験所

わらむけノ一種ニシテ又梅樹ノ下ニ生スルモノ
アリ其形_二梅葦_一ニ似タレモ尋常ノ梅葦ノ如ク食用
トナスヘキモノニアラス往年三人相集リ此ノ菌ヲ
煮食ヒシカ其一人食後暫時ニシテ突然失笑セリ其
父之_レヲ怪シ_二其故_一ヲ問フ其語未_レタ終_レラサルニ又
大ヒニ笑フ他ノ一客モ大笑シ共ニ自ラ禁スル能ハ
ス然_レモ三人トモ死ニ至ラスシテ漸解スルヲ得タ
リ後々其語ヲ聞クニ其味ヒハ亦梅葦ニ異ナラサリ
シト又或_レル説ニモがノ木ノ菌ヲ食フモ亦笑フテ止
マスト云フ

五 おどりあは

秋月山林ニ生ス形松葦ニ似テ茎微シク小ナリ初ノ

其蓋縁ニ連リタル白キ薄膜破裂シテ茎ニ残リ其状宛カモ鍰ノ如シ蓋ハ淡灰褐色ニシテ飯粒ノ碎ケタル如キモノ之レニ附着シハナハハ白色ナリ此ノ菌大毒アリ之レヲ食ヒテ中毒セシ者ハ忽斃ル其症タル煩躁シ頻リニ起立舞踏セント欲シテ自ラ禁スルヲ能ハス或ハ嘔吐下痢シテ後漸次ニ緩解シ幸ヒニシテ死ヲ免カル、モノアリ

六 ベにたけ 漢名胭脂蕈

秋月青頭菌ト同時ニ山林ニ生ス蓋ハ紅色ニシテ燕脂ノ如ク柄茎共ニ白色ニシテ脆ク且ツ碎ケ易シ此ノ菌ハ山民毒アリト云ヒ採食フモノナシ若シ誤リテ食ヘハ吐血シテ斃ル、希多シ或ハ下痢シテ斃ルニ死ヲ免カル、希モアリト云フ

衛生局東京試験所

七 雉子たけ

山林ニ多ク生ス其蓋ハ色淡緑ニシテ微赤ヲ帯ヒ柄茎共ニ淡黄色ナリ食スヘカラス

八 猪傘たけ 一名 虚無僧たけ 漢名仙人帽

其状ヲ白帽ヲ載クカ如シ茎ノ色モ亦白クシテ根上茶褐ナリ此ノ菌類数種アリテ形状皆ナ稍々異ナリ又臭氣アリ共ニ毒菌ニシテ林下卑湿ノ地ニ多ク生ス

九 天狗ノ傘たけ

山林隨処ニ生ス白色ニシテ蓋大ニシテ茎モ亦鍰ノ状ヲ為ス大毒アリ誤リテ食ヘハ必ス人ヲ殺ス恐ルヘシ

十 くま江んたけ

其狀細條ノ珊瑚ニ似テ且ツ赤色ニシテ火冬ノ燃ル
カ如シ高サ三五寸大ナルモノハ壹尺許ニ至ル毒ア
リ食フヘカラス

十一 きつぬのゑうりふで 漢名兔筆

湿地ノ糞壤ニ生ス初メハ白塊ナリ後ニ小指ノ如キ
白色中空ノ茎ヲ抽キ黑色或ハ赤色ノ蓋アリテ開カ
ス粘液アリテ臭気多ク亦有毒ナリ
越后ノ方言なびいねけモ亦劇毒アリト云フ近歲同
國魚沼郡仙田村農夫茂七政次郎ノ二人之レヲ煮食
セ其毒ニ中リ兩人共ニ腹緊満心下ハ衝逆呼吸促迫
大便不通村医下劑ヲ投スト虽モ熱勢熾盛舌黑咽乾
漸次衰憊シ度セハ翌日政次郎ハ一日ヲ越エテ終ニ
斃レタリト云フ

衛生局東京試験所

或ル説ニ凡ソ菌類ハ試ミニ少シク生食シテ辛味ア
ルモノハ必ス毒アリ苦味ノモノハ之レニ次キ其
ノモノハ毒ナシト云フ又煮テ粘滑ノモノアルハ多
クハ毒アリ松茸玉茸ノ如キ上品ノモノト虽モ老
タルモノハ其内ニ小毒アリテ其毒ニ中リテ往々之
レアリ故ニ仔細ニ之レヲ鑑別シ口腹ノタメニ父母
ノ遺体ヲ傷ルヘカラス

菌類ノ中毒療法ハ從來吐劑ヲ与ヘテ快吐セシメ或
ハ継キテ下劑ヲ投用シ又灌腸法ヲ施ス吐瀉石ヲ與
ヘ灌腸ハ蓖麻油食塩ヲ用ヒ而シテ其毒排泄セシ后
ハ酢又ハ亜的兒製劑ヲ与ヘ又和方ニテハ樺皮ヲ煎
服シテ驗アリト云フ其他曰法諸説アリト虽モ老鍊
ニシテ且ツ実験ニ富ミタル医家ニ託シテ輕卒ノ徒

ニ任スヘカラス

以上列記スル所ノ外有毒ノ菌類頗ル多シ尚ホ他日
ヲ俟テ追補セントス

やまおん和名やく本名あ傳抄へほ和名天南星科

やぶおん和名やく本名てん傳抄なみ和名あ傳抄やう加賀

てん和名なみ和名あ傳抄やう加賀

漢名 天南星 洋名 アリセマ、ヤボニキユム

深山陰地ニ産ス一根一莖四クシテ白斑アリ莖端ニ
二葉互生シ共ニ多クノ小葉ハ並ニ着ク莖頂ニ花ヲ
登ク其本ハ筒状ヲ為シ末ハ開キテ上端尖ル其半ヨ
リ前ニ向ヒテ筒上ヲ蓋フ緑色紫黑色ノ間通アリ筒
中ニ長キ田柱ノ莖ヲ挺出シ小田球ヲ綴着シ秋ニ至
リ紅熟ス根ノ形テハ黄獨根ノ如ク田球ヲ為ス此ノ

衛生局東京試験所

実鮮紅色其美ニシテ愛スヘキヲ以テ小兒之レヲ玩
弄シ或ハ口ニ入ルハアリ然レモ味ヒ辛葵ニシテ
其毒劇シク口内ヲ刺戟シ涎沫ヲ流シ舌根萎縮シ堪
難カラシム或ル説ニハ犬島ニ天南星三種アリ一ハ
方言まへんごと呼ヒ辛葵ニシテ毒アリト云フ然レ
トモ三倉島ノ産ニ天南星ノ一種ニシテ斑チアルモ
ノアリ方言をへんおと呼ヒ其根ヲ搗キ碎キ水ニ澄
マシ澱粉ヲ取リテ食料トナスヘシト云フ其他虎掌
斑虎の掌の形杖象頭花ノ如キ数種モ皆天南星ノ属ニシテ其毒
性大約相同シ

てうせんあまづほ 茄科

ざんはんあまづほ たらあまづほ

きあまづか下 ぢまあま上 きちづいあまひ

上総
石炭

てんぢくあそび防具 いづあそび

いがあそ長具 はうあそび豫具 ちやめろ

東京 げくまおろし 讃具 けくまおし 豫具 石炭 白炭

てうせうねむふ遠具 うばろり豊前

洋名 タチエラストラニウム

此草人家ノ庭際ニ栽ウ或ハ云フ貞享年中ニ舶齋セ
ルモノナリト形状畧々茹ニ似テ高サ二三尺葉モ亦
茹ノ如クニシテ刺ナリ夏秋ノ際技指ノ葉腋ニ白花
ヲ着ク取テ牽牛花ノ如クニシテ大本ノ筒状ヲ為シ
辨縁擴カリ略四クシテ少シク五尖ヲ為シ後々実ヲ
結フ四ニシテ刺アリ内ニ教子アリ四扁黒褐色ナリ
近年米因種ニモ教種アリ長大ニシテ其实指四ノモ
ノ多シ元来此ノ草ハ毒物ニシテ医薬ニモ奇驗ヲ奏

衛生局東京試験所

スルモノナレトモ亦往々其毒ニ中リ害ヲ被フルモ
ノ多シ今其例ヲ舉ケンニ相及大住郡土屋村ノ農民
妻子女五人アリ方言異人胡麻ヲ熬リテ末ト為シ油菜
ノ浸物ニ和シテ食セシニ皆口舌不遂嘔吐シ恍惚ト
シテ人事ヲ省セサリシカ翌日ニ至リテ漸ク解消シ
タリ又多量ヲ食セシモノハ四五日ヲ経テ漸ク治セ
シト云フ異人胡麻ハ即チ蔓多羅花ノ方言ナリ又相
及高座郡分村農民鶯菜ノ浸物ニ方言唐胡麻ノ種子
ヲ和シテ食セタルニ全身麻痺咽乾精神恍惚翌日ニ
至リテ漸ク解消シタリ方言唐胡麻モ亦蔓多羅花ナ
リ又青森縣ノ人西洋胡麻ヲ蘿蔔ニ調和シ親子共ニ
之レヲ食シテ其毒ニ中リタルモノアリ面赤ク口乾
キ瞳孔散大言語蹇澁撮空摸床殆ント顛狂ノ如シ然

ルニ遂ニ嘔吐ヲ發シ翌日ニ至リテ快復スルヲ得
タリ所謂西洋胡麻モ亦蔓多羅花ナリ又此レヲ以テ
麻酔毒トシ賊ノ騙術ニ用フルヲアリ其法ハ此ノ実
ノホヲ茶或ハ酒ニ和シ旅客等ニ飲マシメ其毒ニ中
リ昏冒人事ヲ覺ヘサル際ニ衣服財宝ヲ掠奪シ去ル
ナリ又古来外科截断ノ手術ニモ麻藥トシテ之レヲ
用ヒタリキ又其醫藥ニ於テハ鎮疼止痛催睡ノ奇効
アリト云々其毒ニ中レハ眩暈失心終ニ昏冒沈睡ニ
陥ルニ至ル凡ソ此ノ毒ニ中ルモノハ醋若クハ乳汁
油類或ハ濃茶等ヲ與ヘテ解スヘシ此葉ニ烟草二倍
ヲ加ヘテ烟トナシ喫シテ痙症喘息ニ用フルヲ洋
法ニ見ヘタリ

忍冬科

衛生局東京試験所

美夜都古木

和名

たづのき

さたづ

はたふのき

加州

まうもろ

北海

あよろぬ

同

漢名

接骨木

洋名

サンブクス

ラセモリ

此樹諸国山中ニ自生シ又人家ニモ多ク栽ウ落葉灌
木ニシテ高サ丈餘不齊翠葉ヲ對生シ其小葉ハ尖頭
楕圓細鋸齒アリ春初枝梢ノ每節ニ嫩芽ヲ生シテ雷
ヲ含ミ三月ニ至リテ穂ヲ為シ數百ノ小白花攢簇シ
テ開ク后々小実ヲ結フ之レヲ搗キ碎キ綿布ヲ以
テ之レヲ絞リ其汁ヲ取リ煎熬シテ膏トナシ貯ヘ置
キテ痘兒ニ與ヘ其毒ヲ解スト云フ又和漢ノ法ニ打
撲損傷等ニ此ノ樹ヲ用フルヲ多シ又此樹ニ生スル
菌ヲたつむふト呼ビ食用ト為スヘシ又木耳モ多ク
之レニ生ス然レトモ此ノ嫩芽ヲ蔬トナシ食フヲア

リ大ニ下痢ス又曾テ十餘人相集リ此ノ花ヲ烹テ
味噌ヲ和シ蘇トシテ食ヒシ希アリ其人悉ク暴吐瀉ヲ
祭シ其水浮中ニ此ノ花消化セスシテ混シ下リタリ
但シ劇シキ腹痛ヲ覺ヘス只惡心惚懷シ翌日ニ至リ
皆漸ク癒ユルヲ得タリ戒ムヘシ

ふぢもぢき

瑞香科

可爾比カニビ

てうどさぐさ阿波

さつまぶち東京

仙臺

げんトさう丹波

漢名 芫花

魚毒

毒魚

洋名

カフネゲニクワ

此ノ樹江及山中ニ自生ノモノアリト云ヘモ未タ之
レヲ詳カニセス多クハ人家庭園ニ栽エテ花ヲ賞ス
落葉小灌木ニシテ高サ二三尺ニ過キス枝葉對生シ

衛生局東京試験所

春月葉ニ先チ每節ニ紫花ヲ攢簇シテ宛ク辨脚ハ筒
状ヲ為シ辺縁四裂シ丁子ノ形ヲノ如ク其色紫藤ニ
似テ頗ル美ナリ花謝シテ新葉ヲ生ス形ナ椿同頗ル
水蟬樹葉ノ如クニシテ厚ク毛茸アリ

急就篇ニ芫華一名臭毒ト云フモノアリ漁希之レヲ
煮テ口中ニ投スレハ魚即死シテ浮出ス故ニ各ツク
ト又漢藥利水劑ニモ往々之レヲ配セリ又一医生曾
テ此ノ花ヲ採リテ沸湯ニ浸シ自ラ試ミニ飲服セシ
ニ果シテ暴瀉シ遂ニ大ヒニ衰憊スルニ至レリ尔后
固ク兒童ヲ戒ノ漫リニ此ノ花ヲ玩弄スルヲ勿ラシ
メタリ其浮下ノ驗實ニ去水ノ一名ニ背カスト云フ
ヘシ

せん又んさう

毛茛科

はをちぐさ

はをちを千勢草

はをこし尾草

はをちじ草

うしとわぞ同

うしのを和草

むまこわぞ

むまのそ武うけぐさ

ねんがくはふ草草

漢名 大蓼 洋名 クレマナス、ハニキラタ

蔓草ニシテ諸国原野ニ多シ葉形かぶるまに似テ
三枚九葉ヲ一葉トナシ面ニ白斑アルモノアリ七月
四辨ノ白花攢簇シテ開ク恰カモ白雪ノ積リタル如
シ此葉ハ味ニ辛辣ニシテ毒アリ生葉ヲ揉モ皮膚ニ
貼スレハ発泡ス村人之レヲ以テ瘡ヲ截ルモノアリ
或ハ此ノ汁ヲ膏トシテ齒ニ塗レハ脱落ス故ニはを
ちとさノ名アリ此ノ生葉ハ牛馬絶ヘテ食ハス故ニ
うしくぞむまこわぞノ方言アリ和方ノ膏藥中ニ

衛生局東京試験所

此草ヲ交ヤ靈草膏ト稱シ膿水ヲ破ルニ用フルモノ
アリ此ノ如クナルヲ以テ誤リテ之レヲ食ヘハ其
害多シ荒歳ニハ殊ニ注意スハシ

なべわり

百部科

きちがいぐさ

さわぎぞび

はなちぞり

さるふし

漢名 草本黄精釣吻

洋名 コロミヤ、ヤボニカ

諸国深山ニ生ス熊野ハ鬼山河只金剛山勢及鈴鹿山
其他九只ニモ多シ苗葉みづか葉精あまの等ニ似テ柔カリ光
沢アリ毛種前ニ花ヲ開ク於黄ニシテ下垂ス人誤リ
テ此ノ花ヲ韋ムルトキハ舌破裂ス或ハ吐血スルモ
ノアリ注意セサルヘカラス

つたうるし

漆樹科

やまうるし

阿名

かきうるし

阿名

いぬくぢ

なべりりのくき

いはづら

勢品

をにづた

信

うら

みつもの釣吻

漢名 蔓生釣吻

野葛

断腸草

洋名

リュス、トキシコデンドロン

山野ニ多シ蔓生ニシテ樹木岩石等ニ依リ常春藤ノ如ク多ク鬚根ヲ附着シ枝條ハ物ヲ纏ハス葉ハ柄アリテ互生シ大豆ノ如ク三指葉ニシテ暗緑色光沢アリ夏月葉腋ニ黄白細花ヲ開ク此ノ草ノ汁人ノ皮膚ニ觸ルレハ癢疹シ痒クシテ恰カモ漆樹ニ觸レタルカ如シ其毒物タルヲ知ルヘシ

まんどらやけ 石蒜科

衛生局東京試験所

此ノ品既ニ救荒植物集説ニ出セリ而ルニ其性固ト有害ノ品ニ属スレハ此説相及スルカ如シト虫に製法ニ従ヒテ或ハ食用ト爲リ或ハ有害トナル故ニ仔細ニ之ヲ辨明シ狐疑ナカラシムルヲ欲ス且ツ此ノ花鮮紅美麗ニシテ秋郊人目ニ觸レ易キヲ以テ諸国方言極メテ多シ今復々救名ヲ爰ニ補フ

あびる

あわた

こ

あて

あつ

あつ

あつ

あつ

いり

はぬ

いつ

あ

洋名

ネリネヤボニカ

漢名 石蒜

此草ノ形状ハ既ニ救荒植物集説中ニ詳載セルヲ以テ今復々爰ニ贅セス其葉ヲ生シ花ヲ開ラクノ期相

異ナルヲ以テ加別ニテハはみぢはなみずノ方言アリ
小兒此ノ花ヲ玩弄シ誤リテ嚙メハ言語蹇澁ス故
ニ志ヲボトサト呼フ或ハ此ノ根ヲ製シカヤクモホ
粉ニ偽ス味ニ相似タレモ人ヲシテ酔ハシムルヲア
リ從來此ノ根性毒ニシテ誤リ食ヘハ嘔吐シ或ハ下
痢ス往年船齎ノ吐根吐酒石等ヲ欠キシトキ世医往
々此ノ根ヲホトナシ吐劑トシテ用ヒシヲアリ亦催
吐ノ功アレモ早ク快吐ヲ得スシテ懊懷ヲ起スモノ
トス本綱拾遺ノ説ニモ吐藥ニシテ且ツ浮下スト云
ヘリ

はーリマボロ

茄科

於保美苗久佐

伊和名新

於爾美苗久佐 延喜式

於爾之苗久佐 同

於爾保美久佐 延喜式

衛生局東京試驗所

をめぐくさ

さわぢぢ 木曾 やまほ づき 同

やまあぢぢ

かくぢぢ り やまぢぢ

あ、つき、よふ

漢名 莨菪 本綱毒草

嘔吐哕納 西医畧論

嘔吐哕納 英華字典

洋名 スゴボリアポニカ

此ノ毒草ハ武州秩父山常別筑波山其他諸国深山ニ
生ス葉形楕圓ニシテ高陸ニ似テ稍々小ナリ葉脈ニ
花梗ヲ抽キ清明后鐘樣ノ花下垂シテ開ク紫色ニシ
テ裏ヲ淡黄ナリ或ハ間々黄色ノモノアリ又濃州根
尾山ニハ緑花ノ品アリ后チ田キ実ヲ結フ根ハ草薺
茹ノ如ク塊節ヲ為シ頗ル肥大ナリ此ノ草ノ苗説ハ
伊藤主介編輯ノ日本産物志ニ詳載セリ此ノ毒ニ中

リシモノ往々狂乱奔走ス故ニハ一里ニあり又をマ
のぐさ等ノ名アリ又木曾山民ハ花形ニ依リテさハ
ハヒビ又ヤハヒ、づきト呼フ其毒草タルヲ知ルト
虽トモ荒歳ニハ黄精ト誤認シテ之レヲ食ヒ其毒ニ
中ルモノ亦少ナカラス其甚タシキニ至リテハ全身
麻痺言語蹇澀殆ント酩酊ノ状ヲ為シ昏睡シテ終ニ
斃ル、モノアリ又内障針ヲ施スニ此ノ生汁或ハ越
我斯劑ヲ目ニ滴入スルニ瞳子散大ノ状等洋説中毒
瞑眩ノ状ト殆ント異ナルナシ此ノ毒ヲ解スルニハ
酸味ノ液橙汁等ヲ多ク飲服セシムヘシ此草洋種ノ
品ニモ長葉小葉一ナラス和産ノ品ニモ亦長葉ノモ
ノアリ

罌粟科

衛生局東京試験所

はこほれ 木曾 づのくづし 同 ちやんむきく 其他方言多シ

さ、やうぐさ ちやんむきく 其他方言多シ

漢名 博落迴 洋名 マケレヤコルダタ

諸国山野ニ自生頗ル多シ四茎中空ニシテ高サ五六
尺外面白緑粉アリ葉ハ四六ニシテ欠刻浅深宛カモ
所謂雪輪ノ状ナリ如ク皆ナ粉分ナリ此ノ茎葉ヲ切
レハ黄赤汁出ツ根ハ和ノ黄芩ト稱シ漢藥黄芩ノ偽
藥ト為スモノアリ此ノ草モ亦毒草ナリ之レヲ以テ
竹ヲ煮レハ柔軟トナル故ニ一ニハけ又ぐさノ名アリ

こくさぎ 芸香料

のぐさ 城及 へみのちや 越前 くさき 羽及 木曾

其他方言一ナラス

漢名 常山 洋名 オリキサヤボニカ

此ノ樹ハ諸国山林自生多ク又人家藩籬ノ間々ニ雜生ス落葉灌木ニシテ高サ七八尺ニ過キス葉形尖頂倒卵圓ニシテ微シク皺ミ頗ル辛夷葉ニ似テ光沢アリ切レハ惡臭多シ四月葉開ニ穗ヲ為シ細花ヲ綴ル雄本雌本アリ遊相匠話ノ説ニ此ノ葉ノ液人肌ニ觸ルレハ瘡ヲ為スコト漆ヨリ甚タシ其狀癩ノ如クニシテ疼痛尤モ甚タシ相火土人ノ語ニ朝露未タ晞カサル前ニ此ノ樹ヲ切り日ニ當リ又ハ湯ニ入ルハ必ス瘡ヲ發ス早ク水ニテ洗ヒ去レハ此患ヲ免カルト云ヘリ又馬ニ蝨ヲ生シタルハ此ノ葉ヲ煎シテ洗ハハ能ク蝨ヲ殺シテ馬ニ害ナシ凡ヘテ鳥獸ノ蝨ニハ皆此ノ葉ヲ煎シテ洗フヘシ常山ハ此ノ樹根ノ名ニシテ漢藥古来截瘡ノ劑トナシ和名鈔ニ字久比須乃以此稱一云久佐木乃稱トアリ蜀漆ハ即今此ノ苗ナリ

衛生局東京試驗所

うるし 漆樹科

漢名 漆 洋名 リユスヘルニセラ

漆ハ素ト毒アリ之レニ觸レテ漆瘡ヲ發スレハ皮膚ノ細疹其痒キヲ堪ヘ難シ貝原益軒大和本草ニ云フ凡畏漆人中其毒乃致死者有之可早療之治方多シ蟹及蜀椒最制其毒漆器ノ新者毒人可用歷年者其性不畏漆者用新者無害ト又此ノ症ニハ和方栗樹ノ乾葉ヲ煎シ洗フヘシト又毛蟹ノ美汁ヲ食ヒ或ハ此ノ煎汁ニテ洗ヒ或ハ石蟹ヲ搗碎キテ其汁ヲ外敷スレハ驗アリ

さんざんぼく

忍冬科

よめあろし

信

きつねぐみ同

ぢあろび

むまのぶみ

木曾川

ぐうむーごみ

むまぐみ同

ふたあろび越后かへろのつま同

はちねんぶつ

會津

へうりんのき

てつぽふたま

もくまんぶろ

せんくみ花

おうんたぐみ同

かり

可ね

北海道

てへち同アウケシ

まねんね同

同

シコツ

洋名

ロニセラキセーロステウム

信及野列佐渡越后岩代等東北諸山又北海道ニ産ス

落葉灌木ニシテ高サ六七尺枝幹茂生葉形楕圓ニシ

テ對生シ其味ハ苦シ穀而主夏ノ頃ニ至リ葉液ヨ

リ花ヲ着ケ其花ハ稍々忍冬ニ似テ初ノ白ク日ヲ経

衛生局東京試験所

テ黄ニ変スルヲ以テ金銀木ノ名アリ后々実ヲ結ビ

一蒂ニ二花相對シ大サ相均シキモノアレモ多クハ

大小ノ差アリテ相接シ恰カモ葫蘆ニ似タリ故ニハ

うたんぼくハ各アリ其熟スルヤ紅色トナル此ノ実

毒アリ誤リテ一二粒ヲ食フモ煩悶シテ終ニ斃ル

故ニひそつあろびふたつあろびノ名モアリト云

つるび

蕃杏科

たまあかざ

えほむふさぎ

えほちふし

漢名

蕃杏

洋名

ニタラゴニヤエキスバンナ

有毒草木圖説ニつるば漢名詳カナラス小毒アリ多

ク食スヘカラストアリ然レトモつるばハ貧弱本草

ノ蕃杏ニシテ菜蔬ノ類フル冷脆ナルモノナリ上饌

ノ料ニ供スヘシ又生食モ佳ナリト云フ猶ホ参考ス

ヘシ

ふくいも

天南星科

しむぎのいも土佐いーいも

あんなあし

はせやいも薩南島

えしがあハ薩

えんーうい沖繩

漢名 海芋

洋名

アロカシヤマコロユサ

土佐足摺山薩山山川日向淡島等暖国ノ海辺ニ産ス
長サ三四尺茎葉ハ白芋ニ似テ稍々厚ク粉緑色光澤
多シ其根ノ大ナルモノハ周圍殆ント尺餘ニ至ルモ
ノアリ且ツ坚硬ナリ故ニいーいもノ名アリ幹ヲナ
シ枝ヲ分テ八月葉心ヨリ花ヲ出ス形テ青芋ノ花ニ
似テ佛焰ノ如キ苞立テ内テ一柱アリ許多細少ノ
花ヲ綴ル成図説ニモ南島ノ地此ノ品多ク荒敷ニ

衛生局東京試験所

遇ヒテ死ヲ免カレ難キヤ已ムヲ得スシテ掘採リ砂
糖ニ和シテ煮食セシテアリテ其毒ニ中ルモノ少ナ
カラス身体腫脹セリト云ヘリ故ニ吉田平九郎嘗テ
此ノ茎少許ヲ噛ミ試ミシニ口舌麻痺シテ頻リニ流
涎シ其毒甚タシカリシト云ヘリ芋ヲ種ハ三年採ラ
サレハ報芋トナリテ毒アルト並ヒニ別ニ野草
ナルモノアリテ亦毒物ナルトハ漢説ニモ往々拳ク
ル所ナリ元来芋ハ斯ク毒性ナルニ由リ変種ノ葵味
ヲ脱スル諸芋ヲ裁ヘ傳ヘテ之レヲ民食トナセシハ
宛カモ柳類ノ山中自生ノモノハ淡柳ニシテ食フハ
カラサルカ故ニ変種ノ淡ヲ脱スル品ヲ擇ヒ裁エテ
食フカ如シト云ヘリ其枚年採ラスシテ毒トナルハ
蓋シ其性ノ還原スルモノトス

けい

嬰粟科

漢名 嬰粟

洋名 ハ、フルリムニヘリム

けいノ嫩苗ハ民家ノ食用トナシ別ニ弊害アルヲ見
ス然ルニ阿芙蓉ハ此ノ生穀ヨリ出ル乳汁ノ製劑ニ
シテ其功害ノ実ニ劇烈ナルハ世人ノ知ル所ナリ又
其乾穀ヨリ製スル舍利別モ咳嗽ニ異功アリ素人ノ
之レヲ聞キテ自ラ煎煮シ砂糖ヲ加ヘ舍利別トナシ
服スルモノアレトモ其分量ヲ知ラスシテ妄用シ往
々中毒シ珠ニ小兒ノ中毒シテ斃ル、モノ夥ナカラ
ス実ニ慨嘆ニ堪ヘサルナリ其中毒ノ状タルヤ俄然
煩悶、譫妄、脈細數、皮膚蒼白、瞳孔縮、便秘、流汗、痙攣劇シ
ク呼吸漸々衰滅シテ終ニ殮ル実ニ危険ノ毒物ナレ
ハ速ニ医ニ就キテ救治ヲ乞ハサルヘカラス迅速ニ
吐劑ヲ與ヘ又植物酸ヲ内外ヨリ投用シ或ハ刺絡蟬
針ヲモ兼用スヘシ

衛生局東京試験所

左ツーようまめ 蔓科

おーやらくまめ 東京 ちふりまめ くさまめ

ちりりまめ ちやくちやうまめ 播及

漢名 黎豆 洋名 ミユキユナカビタタ

諸国珠ニ西国ニ多ク植エ蔓葉共ニ長大ニシテ葉形
ハ刀豆ニ似テ葉頂尖細ナリ葉腋ニ穂ヲ為シ蛾形花
ヲ綴ル其色深紫賞觀スヘシ其豆數莢相綴リ其状ニ
因リテあるこまめ、ちやくトよまめノ名アリ形々
長大短毛頗フル藤ノ莢ニ似タレトモ扁ナラス豆形
大ニシテ斑アリ其莢老ユシハ色黒ク之レヲ煮レハ
其汁モ亦黒シ故ニ黎豆ノ名アリト云フ又漢法ニ小

毒アリ多ク食へハ人ヲシテ悶セシム其食法ハ煮テ
黒汁ヲ去リ猪鷄ノ肉ト全ク再煮スレハ其味ト佳ナ
リト云ヘリ本邦ニ於テモ亦食用トスレトモ往々頭
痛嘔吐泄瀉或ハ腹痛ヲ發スルアリ多ク食フヘカ
ラス

ざんさう

天南星科

たろまさう ぎやうどやふち日光あふむ
ばうどまつば甲斐うしのち、藝員うしびねい木
菅村 くまんあんさう 同萩曾 くまんあんね 越前
やくあねん 同 て、つ、ば 同 はうつぎふ 北海道
あけれべきふ 同

漢名 地湧金蓮

洋名

アリユムコロカシヤ

加賀白山及ヒ陸越濃信等ノ深山溪澗ノ水辺ニ生シ

衛生局東京試験所

葉形田潤觀音蓮

ニ似テ短ク葉柄ニ溝アリ此ノ茎葉

ヲ切レハ悲ノ臭氣アリ啓蟄前後ニ至リ葉ニ先ケテ

花ヲ開ク天南星ノ花ノ如クニシテ短カク恰カモ仏

龕ニ似テ紫黒ナリ内ニ蕊アリ色白クシテ紅ク帶ヒ

花衰ヘテ葉ヲ生ス此ノ草大毒アリ誤リ食ヘハ吐血

スト云フ

みづはせを

天南星科

くまさがさう 信員

かたねんゲ 同戸隠

ぺこのーね 和員

うしのあね 松前

ぺいおのー、南部

てんぺい 越前

ごうきふ 北海道

ちんきふ 同

漢名 觀音蓮

洋名

リシ、トンカムシヤテンセ

信越陸羽等東北諸列及ヒ北海道膽振新室蘭等ノ深

山水濕ノ地ニ生ス一根叢生シ葉ハ澤泻アサギサニ似テ尖リ其長サセハ寸濶サ三四寸厚クシテ黄綠色ナリ茎ハ青アサギサノ如クシテ肥タルモノハ長サ二尺ニ至ル清明前後根上ニ短茎ヲ抽キ花ヲ開ク一瓣白花ニシテ長サ三四寸濶サ一寸半許形ナリ亦タ仏龕ニ似テ内ニ長葉アリ頗フル白萼ノ花ニ似タリ漢説ニ觀音ノ像ノ四光中在ル状ノ如シト云ヘリ山民云フ此草ヲ食フトキハ全身浮腫ス故ニ食スルモノナシト凡ソ天南星科ノ諸品ニハ食品モアレト斑ハハ杖ハハ由ハハ跋虎ハハ掌等其毒物頗ル多シ凶荒ノ時ニ臨ミテ最モ注意セサルヘカラス

あぶらきり

大戟科

さくぬ伊勢

さくまうのき同

さくま同

さくぬのき駿河さくぬ播磨

さくぬのき但馬

くもぞ江

あぶらき播磨

あぶらきのき近江

あぶらみ同

だま三才圖會

うむ土佐

まるみ伊勢

らいぐわん

だいくわん播磨

漢名 嬰子桐

洋名

エレオコッカ、コルダ、

此樹諸国ニ傳植ス近江若狹丹波出雲伊勢駿河等殊ニ多シ葉形ハ草綿ニ類シ濶大ニシテ三尖又ハ五七尖ヲ為ス此ノ樹ニ雄雌アリ夏至前後ニ枝上ニ穂ヲ為シ五瓣白花ヲ開キ后チニ実ヲ結フ其形統トウ隨子ニ似テ毒アリ故ニ毒苳ト呼フ之ヲ搾リ油ヲ取ル伊勢ニハ毒油ノ名アリ桐油製造ニ用ヒテ其功苳ノ油ト同シ支那ニテハ木油及桐油ト呼ビテ今或ハ雨衣ノ用トス本邦ニテハ草綿油ヲ雜ヘ燈油ト為ス又近

衛生局東京試験所

未^レパンキ^シ金ニモ之^レヲ用^フ此ノ油ハ食用ニ供スハ
カラス

かくたみ

胡椒科

之^レ不^レ木

和名 鈔

之^レ布岐

本草和名

度久太美

聚方 同類

かくためちぐくろ

會津代

ぢおく、さ 伊勢

へびおる

日白

おふやく

熱野江及馬ノ病ニ
用ヒテ十種ノ藥効アリ

ヤリ故ト云フ

まうぶ

くさら 豊后

漢名 蕺菜

洋名

ホウトキニヤ、コルダ、

此草ハ世ニ毒草ト傳稱スルモノニシテ諸国ニ多ク
自生ス其實ニ毒アルヤハ未タ実験セスト虽モ國藥
須知ノ説ニ駿河甲斐等ノ山民ハ此ノ根ヲ採リ飯上
ニ蒸シテ朝夕食スルニ味ヒ甘シテトモ小毒アリ
ト云ヘリ又和方ニ瘡腫ノ類ニ外用シ毒ヲ消スルノ
効アルヲ以テかくたみノ名アリト云フ又脱肛ヲ病
ム者此ノ草ヲ煎シテ之^レヲ洗ヘハ其痛ミヲ和ラク
ト云フ

ふちうつぎ

馬錢科

かくふぢ

につぶうつぎ

漢名 醉魚草

洋名

ヒュトレイヤ、キユルヒフマラ

灌木状ニシテ直立セス多ク枝ヲ分ツ葉形ハ尖頭長
楕圓様ニシテ水揚葉ニ似テ大ナリ枝葉兩対ス嫩枝
ハ稜アリ隆起シ鬼箭羽ニ似タリ夏月梢上ニ穂ヲ為
シ花ヲ着ク小四瓣ニシテ形テ稍々丁子ニ似タリ初
メ紅紫ニシテ后々白色ニ変ス其狀頗ル觀ルヘシ山
民荃葉ヲ石灰ニ和シ水中ニ投シ魚ヲ毒スルノ料ト
ス近年舶載ノモノハ其花色尚ホ美ナリト虽モ亦注

意スヘシ

むいけいさう

蕪蘆科

そへのでく

おちばいけいさう

ゆきわりまろさつぶし

下野

はけ、人さう、伊勢

漢名 蒜蕪蘆

洋名

ヘラトリウム、アルヒウム

江尾、勢、信、其他ノ諸別及ヒ日光山等ノ沮洳ノ地ニ産ス。葉形稍々長シ上ニ穂ヲ為シ枝ヲ分チテ六瓣白花ヲ綴ル。此根味辛シ飯ニ和シ蠅ニ食ハシムレハ忽チ死ス。山民常ニ之レヲ廁中ニ置キ蛆ノ生スルヲ防クト云フ。又馬之レヲ食ハス若シ食ハハ酔フ又之レヲ煎シテ牛馬ノ糞ヲ洗駢スルニ驗アリト云フ。洋説ニ改列ノ南北諸地ニ産スレトモ、英、国ニハ見エスト。此ノ草ハ峻烈、癸冬ノ毒草ニシテ之レヲ燕下スレハ、嘔吐下痢シ若シ過度ニ妄投スレハ、人事不省、痙攣、且麻酔ヲ誘發ス。又硫黄膏ニ和シテ皮膚ノ殺害劑トナセハ、偉功アリ。此ノ草ノ圖解ハ、伊藤圭父ノ著書、文部省出版、日本産物志、近江部ニ詳載セリ。

ろくづ

忍冬科

曾久止久

本草和名、蕪蘆、轉字音ナリ

曾久止字

大和、心方

つちむすかた

延喜式

そくで大和

ぞくづ

信濃、木曾

くさたづ

西京

にわたづ

備前

やぶう

同

漢名

蕪蘆

接骨草

洋名

サンサム、ビュキウス、ケウン、バルギヤナ

諸国ノ原野路傍ニ自生多キ宿根草ニシテ接骨木ノ属ナリ。接骨草一名おたづ、又またづト云フ故ニくさたづノ名アリ。茎葉花実共ニ接骨木ニ似タリ。葉ヲ切

衛生局東京試験所

レハ臭氣アリ和方ニ此ノ草ヲ炙シテ疥癬ノ洗藥ト
ス此ノ嫩葉ヲ食スレハ味ハ頗ル佳ナレモ接骨木葉
ノ如ク浮利亦劇シク以テ食スヘカラス
志申乃さう
熱蘆科

夜未波良 和名 鈔 之々乃久比能岐 同

又つおふらん

漢名 熱蘆 洋名 ヘラトリウム、ニグライウム

諸国ノ山林陰地ニ多シ葉形細長ニシテ高サ一尺許
縦テニ皺ハ多クシテ接摺苗ニ似タリ大暑ノ頃一茎
ヲ抽キ上ニ枝ヲ分テ細花ヲ綴ル六瓣紫黑色ニシテ
扁莢ヲ結フ根ニ毛アリ一種花緑色ノ者ヲあをやザ
さうト呼フ漢説ニモ熱蘆ハ吐劑ニ用フレトモ毒ア
ルヲ以テ輕用スヘカラス誤リテ之レヲ食ヘハ頻リ

衛生局東京試験所

ニ吐涎シ或ハ癡狂シ斃ルト云フ植物ノ害毒ニハ水
炙シテ葉ニ灌ケハ速カニ去ル夢蘆ノ炙ヲ驅逐スル
ニモ亦之レヲ專用ス

和名 ばらし ト碎米芥 同名 毛茛科

布加豆三 和名 鈔 不加豆彌 新撰字鏡 宇之乃比

多比司 之々乃比多比久佐 医心方 むまのおう

ちれ美濃 ちし らむ下説 ねぜり 東京英ニ

うしせり 西国 うむぜり 司 かへるのうつね 上

漢名 石龍芮 洋名 ラニユンキユリス、スセー

レラケユス

或ル人ノ考ヘニ不加豆彌ノ不加ハ塗ニシテ塗田ヲ
不舐多ト誤ミ此ノ草ハ塗田ニ生シ其實ノ形ヲ柘ニ
似タルヲ以テ此ノ名アルナラント云ヘリ溝瀆田水

ニ多シ冬ヨリ苗ヲ生シ葉欠裂多ク形々稍々回々まづねのぼり森
ニ似タリ其茎ハ中空ニシテ毛茸ナク面光滑ナリ穀
雨ノ前後ニ五瓣小黄花ヲ開キ恰カモ毛茛花ノ如ク
ニシテ較々小ナリ其實ハ楊梅ニ似テ小サク且長シ
葉味辛ク毒アリ誤リテ食ヘハ頬腫レ或ハ吐血ス故
ニほうばれぐさノ名アリ又ほでほでノ異名アリ蓋
シ其吐血ノ出ル状ヲ云フ俚言ナリ又瘡ヲ截ルニ此
ノ葉ヲ臂ニ貼ス洋説ニモ畜類殊ニ羊之レヲ食ヘハ
斃ル、トアリト云フ荒歳ニハ窮民間々此ノ草ヲ食
フトアレモ毒草ナルカ故ニ之レヲ禁スヘシ或ハ云
フ牛ヲ野飼ト為スニ他ノ雜草ハ能ク食スルモ此草
ノミハ嚙マズ其額辺ニ残ルヲ以テ牛のひたむぐさ
ノ名アリト云フ

衛生局東京試験所

きんぽうげ

毛茛科

むまのあーが

おろまおろし 近江

をめき紀及熊野

おにぎり 備后

むませり 播磨

むまみつを 伊勢

漢名 毛茛

洋名

ラニユニリユリヌス、アキリス

原野溝瀆ノ辺ニ多シ葉欠裂毛茸アリ冬月凋マ
深緑色ニシテ紫點或ハ白點アリ四月高サ二尺許茎
稍ノ葉ハ岐深シ清明ノ后々茎上ニ花ヲ着ク五瓣梅
花ニ似テ稍々小サリ黄色ニシテ光アリ先輩ノ説ニ
山民齒痛ヲ止メ或ハ瘡ヲ截ルニ此生葉ヲ搗爛シ手
ノ脈部ニ貼シテ効アリト云フ是レ亦毒草ナレハ凶
荒ノ時ト雖モ食用トナスヘカラス

きつねぼね人

毛茛科

でくかいくさ およせり おほせり陸前仙臺美濃芥葉

釣名 ト うしみつむ美濃 いぬみつは同

ざちぎちくさ尾張郡 うませり尾張 うむせり

豊前豊后

漢名 回々蒜 洋名 ラニユンキュリエス、テルケ

ユス

此ノ草モ亦田野水傍ニ多ク生ス毛茛ノ属ナリ毛茛ヨリハ茎太ク中空ニシテ高サ二尺許葉取ハ三裂或ハ五裂ニシテ又ハ欹裂尚ホ多クシテ且鋸齒アリ上ニ救梗ヲ分ケ五月五瓣ノ小黄花ヲ着ク大サ三四分取ケハ毛茛ヨリ小サクシテ瓣狭長ナリ此草モ亦瘡ヲ截リ或ハ齒痛ヲ止ムルニ手ノ脈部ニ揉貼スレ痛ミ爛ル、トアリ其發泡ノ状略々芫菁膏ヲ貼スルニ似タリ賤民往々みつむぜリト誤リ之レヲ食ヒ腹痛吐浮セシ希アリ注意スヘシ

衛生局東京試験所

471.9
Yw
9686
立衛生試驗所

立衛生試驗所

